8月10日は「道の日」

道路ニュース

THE ROAD NEWS No. 644
令和５年７月号

発行所　全国道路利用者会議
〒100-0013
東京都千代田区霞ヶ関3-3-1
尚友会館6階
電話　03-3501-5611㈹
発行人　小林　勉
定価　20 円（会員の購読料は会費に含む）

休憩施設における大型車駐車マス拡充の取組み

～ 2022年度は大型車マスを約400台拡充、2023年度には約600台の拡充を予定 ～

NEXCO東日本、NEXCO中日本、NEXCO西日本は、高速道路の休憩施設において顕在化している大型車駐車エリアの混雑に対し、大型車駐車マスの拡充の取組みを進めている。

今回、2022年度の拡充実績および2023年度の拡充予定をとりまとめて発表した。

【駐車マス拡充2022年度の実績と2023年度の予定】

2022年度は既存エリア内での小型車マスから大型車マスへの描き換えなどにより、全国21箇所のSA・PAにおいて、大型車マス373台の拡充が完了した。

2023年度には全国37箇所のSA・PAにおいて約600台の大型車駐車マスの拡充を予定している。拡充にあたっては、マスの変更だけでなく大規模な土工工事や照明・満空情報板といった既存施設の移設などを伴う工事も予定している。

NEXCO3会社では、高速道路の休憩施設駐車場について、2018年度から継続して駐車マスの拡充・レイアウト変更を進め、これまでに約3，000台分の大型車駐車マスを増設してきたが、依然として混雑が見られる状況である。一方で、休憩施設の敷地は限られており、駐車マスの増設やレイアウト変更による対策には限界がある。そのため、現在、有識者および独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構、NEXCO3会社で実施している「高速道路SA・PAにおける利便性向上に関する検討会」において駐車マス不足への対策を検討している。検討会での議論も踏まえ、今後は休憩施設以外の高速道路事業用地などを活用した大型車マスの増設も検討していくとしている。

	2022年度実績　21箇所			2023年度予定　37箇所※3		
	工事前	工事後	増減	工事前	工事後	増減
普通車マス数（台）※1	1，304 （1，446）	1，121 （1，903）	−183 （+457）	2，712 （3，344）	2，246 （3，297）	−466 （−47）
大型車マス数（台）※2	706	1，079	+373	1，516	2，114	+598
NEXCO3社合計	2，010	2，200	+190	4，228	4，360	+132

※1：（　）は兼用マスを含んだマス数（兼用マス1台あたり普通車2台分としてカウント）
※2：兼用マスを含んだ大型車マス数（兼用マス1台を大型車1台分としてカウント）
※3：現時点での計画のため、完了時のマス数は変更の可能性がある

【駐車エリアの課題】

①平日の夜間における大型車の混雑

平日の夜間を中心に大型車の駐車マスが不足し混雑している状況が発生している。東名　足柄SA（上り）では、8時間以上の長時間駐車が約6割を占めており、1台による駐車マスの占有時間が長くなっている。そのため、多くの車両が利用できず、大型車の駐車マス不足の一つの要因となっている。また、足柄SA（上り）では、2022年3月に大型車駐車マスを拡充したが、大型車の駐車台数が大型車駐車マス拡充後に増加する状況が見られ、依然として混雑が発生している。

大型車マスへの普通車の駐車

普通車マスや通路への大型車の駐車

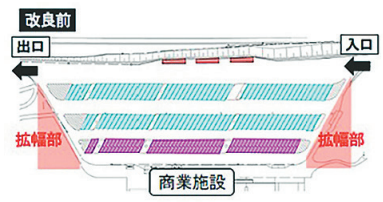
「兼用マス」を青色ラインで明示
（NEXCO 中日本での事例）

不適切な駐車マスの利用

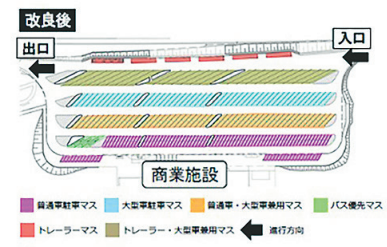
②不適切な駐車マスの利用

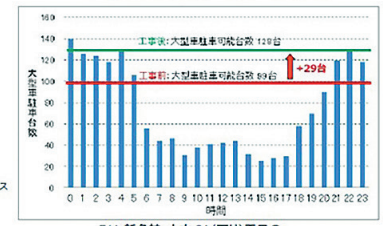
大型車マスに普通車が駐車する、または普通車マスに大型車が駐車するなどの不適切な利用のために、本来駐車できる車両が駐車できない状況が発生している。

また、普通車と大型車のどちらでも利用できる「兼用マス」（NEXCO中日本では「兼用マス」は青色ラインで明示）の整備を進めているが、本来の機能が発揮できない事例が見受けられる。



既存敷地の有効活用による駐車エリアの拡大





E1A 新名神　土山 SA(下り)平日の
大型車時間帯別駐車台数と駐車可能台数
※大型駐車台数は工事前の 2019 年 10 月時点

③予約駐車マスおよび通路などでの不正駐車

近年整備を進めているダブル連結トラック駐車マスに、ダブル連結トラック以外の車両が駐車し、ダブル連結トラックが駐車できないといった事象が発生している。そこで、NEXCO中日本では新東名　浜松いなさIC路外のダブル連結トラック専用の予約駐車場に加え、東名　足柄SA（上り）、新東名　静岡SA（上下）、新名神　土山SA（上下）にダブル連結トラック専用の予約駐車マスを整備し、2021年4月から順次運用している。これらの予約駐車マスは事前の予約で確実に駐車可能とするものであるが、非予約車両の駐車や、通路などへの不正駐車により予約車両が利用になれない事象が発生している。

【2022年度の主な取組み】

①大型車駐車マスの拡充および案内標識の整備

《東北道　佐野SA（下り）の事例》

東北道　佐野SA（下り）では、特に平日昼の時間帯を中心とした大型車駐車マス不足が顕在化している。これに対し、NEXCO東日本では大型車の駐車可能台数を約1・6倍に拡充するとともに、エリア内のバリアフリー化（駐車場部と歩道部間の段差解消等）、および駐車場内でスムーズに駐車スペースを案内するための駐車状況をリアルタイムで表示する案内標識整備を商業施設のリニューアルに合わせて実施し、多様な利便向上を図った。

②敷地拡幅による大規模な休憩施設レイアウトの変更

《新名神　土山SA（下り）の事例》

新名神　土山SA（下り）では、既存の敷地を有効活用し、駐車エリアを拡幅することにより、大型車の駐車可能台数を約30台増設し、大型車駐車マスの混雑緩和を図った。また、トレーラーの利用が多い実態を踏まえ、トレーラーと大型車のどちらでも駐車可能なマスを新たに設置した。

レイアウト変更後の状況（E1A 新名神 土山 SA(下り)）

新名神　土山SA（下り）の事例

③トラックドライバーの利便性向上に向けた取組み

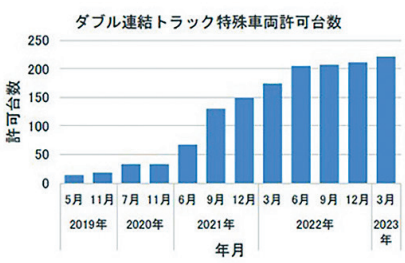
《中国道　安佐SA（上り）の事例》

NEXCO西日本では、物流支援の観点から中国道の利便性向上に向けた取組みを実施している。

中国道　安佐SA（上り）では、駐車場内のレイアウトを変更し、普通車と大型車がどちらでも利用可能な兼用マスを新たに整備するなどにより、大型車駐車マスを約3倍に拡充した。併せて、2022年度に24時間コンビニエンスストアの営業を開始、さらに2023年5月10日に、中国道で初となるシャワーステーションの営業を開始した。

④ダブル連結トラック駐車マスの整備

1台で通常の大型トラック2台分の輸送が可能な「ダブル連結トラック」は、2019年1月に特殊車両通行の許可基準が緩和され、本格運用が開始された。2019年8月に運行区間が東北道から九州道まで拡大されて以降、ダブル連結トラック特殊車両通行の許可台数は増加している。2022年11月には、物流事業者のニーズなどを踏まえ、通行区間が約2，050kmから約5，140kmに拡大された。



ダブル連結トラック駐車マスの整備状況
（E19 中央道　小黒川 PA(下り)）

ダブル連結トラック駐車マスの整備

【開通による整備効果】

今回の開通により、バイパス全線が繋がり、これまで狭隘で歩道もなく円滑な交通に支障をきたしていた区間が解消され、通学路等の安全確保や常磐道へのアクセス向上が図られることで、地域の更なる発展に大きく寄与するものと期待される。

令和5年7月12日（水）開通

県道取手つくば線バイパス
つくばみらい市板橋～南太田

～バイパス全線が繋がる～

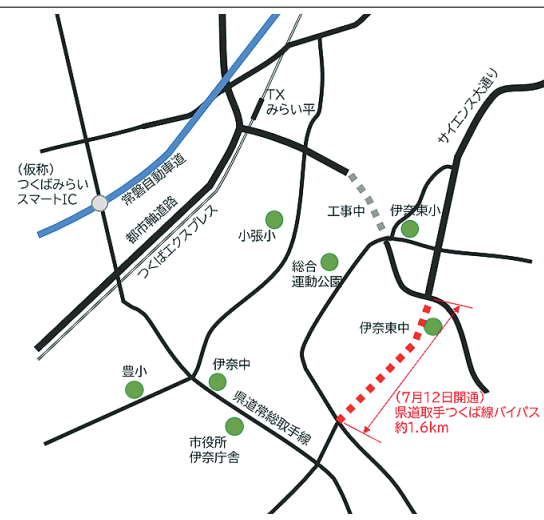
茨城県が整備を進めてきた、取手つくば線バイパス（つくばみらい市板橋～南太田）が令和5年7月12日（水）に開通した。

【開通日】

令和5年7月12日（水）

【開通区間】

取手つくば線バイパス（つくばみらい市板橋～南太田）／延長1・6km



令和5年度
「道路ふれあい月間」
推進標語

『気持ちいい
道路であいさつ
にっこにこ』

“道路総合システムサービス”企業
NICHIREKI
ニチレキ株式会社
東京都千代田区九段北4-3-29　TEL 03(3265)1511代表